

公共交通ネットワーク及び交通バリアフリーの「見える化」の推進
 — 9/1「元気ハツラツ市」での出展分 —

目的

- 県内における GTFS-JP 化、見える化を加速化
- 公共交通の利用機会の創出



←GTFS-JP
の概要

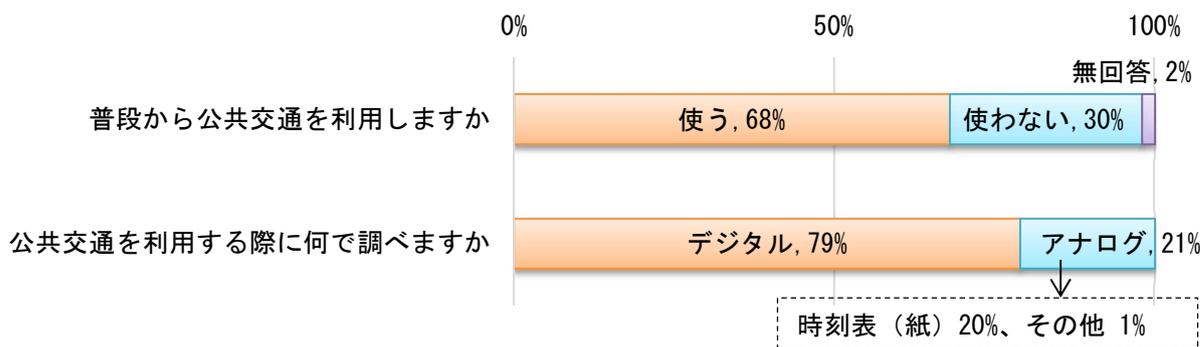


取り組み内容

- 公共交通イベントにおいて「経路検索体験ブース」を出展し、タブレット端末により、一般の方に、地図アプリや乗換アプリを使った経路検索を体験していただいた。
- GTFS-JP の有用性、情報バリアフリーの必要性を周知するため、リーフの配布やポスターの掲示を行った。

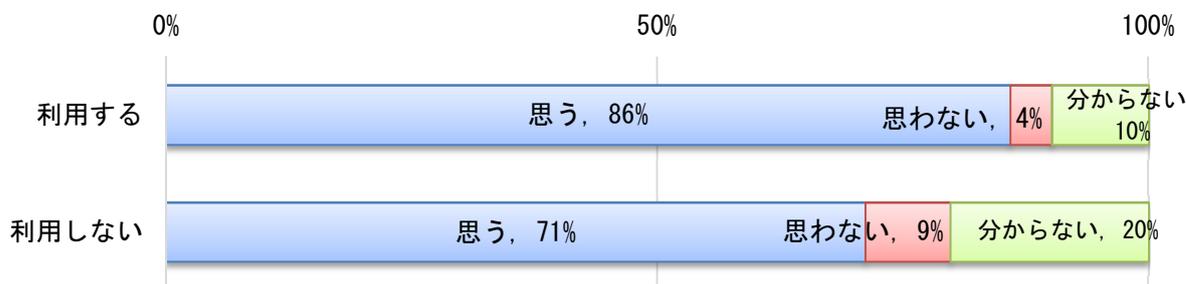
実施結果

- ブース来訪者 80 名のうち約 7 割が、普段から公共交通を利用していた。
- 経路検索はデジタルが約 8 割だが、紙の時刻表の利用者も 2 割存在している。



- 普段から公共交通を利用する方の 9 割弱、利用しない方の約 7 割の方が、データ整備が進めば公共交通の利用機会が増えると回答している。

[普段の利用×データ整備による利用機会の増加]



考察

- スマホ利用者からはデジタル化を歓迎する声が多く聞かれた一方、紙媒体を必要とする方も一定数いるため、効果的・効率的に発信することが重要である。
- 公共交通の利用機会の増加には、便数・ダイヤなど利便性の確保が当然前提となる。
- 今後は、利用者の不安解消のため、運休・遅延などリアルタイムな情報提供が望まれる。